

トルコギキョウ

使用産地：長野県、静岡県など

使用目的：

品質は花の大きさや花色の鮮やかさ・切り花の長さや太さなどの外的品質のほか、日持ち・鮮度などの内的品質も評価基準となります。茎葉から花までの品質を揃えてバラつきを少なくする栽培管理が求められます。

下葉の枯れ上がりなどが無いように生育後期まで養分吸収が維持出来る土づくり、根づくりのほか土壌病害への対策も必要となります。表層より深さ30～40cmの物理性改善と保肥力を高めるために下層部へ有機物を投入し、微生物による分解・腐植化を図ります。

各地の使用体系

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
静岡・浜松	●				■	■	■	■	■	■		
	定植				収穫		コフナソーラー法					
静岡・浜松		●					■	■	■		●	
(※ラナンキュラス)	収穫						コフナソーラー法				定植	
福島・福島					■				○		■	●
					収穫				播種	元肥コフナ	定植	
		○		●			■					
		播種	元肥コフナ	定植	↓元肥コフナ							
			○	○	○	○	●	●	●			■
福島・福島							○	堆肥	●		■	■
(※ストック)												
長野・上田			○					■	■			
			コフナ・堆肥				収穫					
				コフナ・堆肥	■	●				■	■	更新
	○	●	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	○	●	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

長野県

(別添 PDF)

コフナ施用によるトルコギキョウ発根状況における考察 (平成21年コフナ会資料)

静岡県

生産地：静岡県浜松市北区

栽培作物：トルコキキョウ

ラナンキュラス

アスター

栽培面積：30a（施設面積）

使用方法：採花後、夏場にコフナ・ソーラー法実施

使用数量：コフナMPSS 15袋／10a

ビオマス（コフナのエサ）



■ コフナ導入の動機

全圃場でのトルコキキョウの生育不良の為

■ コフナ導入後の変化

持ち込みの病気が有った場合でも、大きくは広がらず、年々病気が減ってきている。



■ 栽培に影響したコフナ投入パターン

使用歴が10年以上のころに、過去にコフナ・ソーラー法を実施していて問題はなかったが、ある年の生育が不良であった。前年のコフナ・ソーラー法の実施期間は7月10日～8月10日（開始後3～4日は晴れ間があったが、その後はほぼ曇天でであった）。

原因を調べるために、圃場調査を行ったところ、圃場内部で額縁状に枯れていました。施設の枯れた状況を見れば原因は一目瞭然。

「年々コフナ使用量を減らしていませんか？」という質問をしたところ、4～5年前から反当10袋を切る数量でコフナ・ソーラー法を実施していました。

暑い時期に出来れば問題はなかったかもしれませんが、不安定な天候が続く場合や実施期間が短かったりすると、圃場内サイド（額縁）と柱周りに病気が出やすくなることがあります。

その後の対策として、今後も冷夏の可能性があるので、初めて使用した時の数量（15袋／反）＋額縁や柱周り用に2袋、併せてビオマスや米ヌカなど分解し易やすい資材を終了後出来るだけ早く投入してコフナ・ソーラー法を実施していただいています